



② 新道区

- 凡例**
- 市役所
 - 居住誘導区域
 - 都市機能誘導区域
 - 誘導重点区域
 - 地域自治区
- 人口分布 250mメッシュ
 P2年 総人口密度
 40人/ha以上
- 洪水浸水想定区域
 5.0m以上
 3.0m以上～5.0m未満
 0.5m以上～3.0m未満
 0.5m未満
- 家屋倒壊等氾濫想定区域
 沿岸浸食
 氾濫流
- 津波災害警戒区域
 津波災害集積箇所
 内水被害警戒区域
 土砂災害警戒区域
 土砂災害特別警戒区域
 ため池浸水想定区域
 なだれ危険箇所
 垂直避難困難
 要配慮者施設
 避難困難可能
 水害緊急避難場所
 土砂災害緊急避難場所
 津波緊急避難場所

- 図中番号凡例**
- ①-1 洪水災害(計画規模)
 - ①-2 洪水災害(想定最大規模)
 - ①-3 多段階浸水被害(降雨確率)
 - ② 土砂災害
 - ③ 津波災害
 - ④ 内水災害
 - ⑤ ため池災害
 - ⑥ なだれ災害

誘導区域内
 誘導区域外

0 500m 1000m 1500m

N
S

災害リスクが高いエリア

一定の災害リスクは存在するが、人口密度が低いエリア

※災害ハザードのうち「①-3 多段階浸水被害」は図示していません。

表 災害リスクの整理 (②新道区)

災害ハザード	災害リスク	含まれる誘導区域(*)			
		居	都	重	外
①-1 洪水災害 (計画規模)	区南部の関川沿いを中心に洪水による浸水被害のおそれがあり、人口密度が高く垂直避難が困難なエリアが集中しており、エリア内に要配慮者施設も複数立地し災害リスクが高くなっている。 関川沿いの高齢者人口割合が高い地区において災害リスクが高い。	●	●	—	●
①-2 洪水災害 (想定最大規模)	上記計画規模において災害リスクが高いエリアが拡大されるとともに、家屋倒壊等氾濫想定区域に指定されている区南部において、大学の立地や人口密度が比較的高く、かつ垂直避難が困難なエリアがあり災害リスクが高い。	●	●	—	●
①-3 多段階 浸水被害 (降雨確率)	関川沿いにおいて、現況から中長期にかけて中頻度(1/50)の0.5m以上浸水想定区域があり、高齢者人口割合の高いエリアにおいて災害リスクが高い。 想定最大規模では、現況から中長期にかけて浸水深0.5m以上の浸水想定区域が区全域に広がり、災害リスクが高い。 浸水深3.0m以上となる中低頻度以上の災害リスクは区内には見当たらない。	●	●	—	●
② 土砂災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—
③ 津波災害	災害リスクは存在しない。 ※関川沿いの一部に津波災害警戒区域が指定されているものの、居住エリアには該当していない。	—	—	—	—
④ 内水災害	上越 IC 南に立地する商業施設集積地及び区南部用水路周辺において内水浸水被害実績箇所かつ高齢者人口割合が高いエリアがあり、特に後者については災害リスクが比較的高い。	●	—	—	—
⑤ ため池災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—
⑥ なだれ災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—

(*) 居: 居住誘導区域、都: 都市機能誘導区域、重: 誘導重点区域、外: 誘導区域外、—: 該当なし

【居住誘導区域内の災害リスクについて】

区南部における居住誘導区域において、特に洪水や内水災害に関し浸水区域と人口密度、高齢者人口割合、要配慮者施設の立地の関係において災害リスクが高い。